

令和3年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473600649	事業の開始年月日	平成15年12月1日
		指定年月日	令和3年12月1日
法人名	株式会社 木下の介護		
事業所名	木下の介護 グループホーム泉		
所在地	( 〒245-0023 ) 神奈川県横浜市泉区和泉中央南5-23-12		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	令和4年1月19日	評価結果 市町村受理日	令和4年5月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/">http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者お一人おひとりの個性・尊厳・生命を守り、活力ある生活を支え寄り添うようなケアを目指し、入居者の希望を汲み取りながら、散歩・料理作り・家事手伝い・歌・作品作り等を取り入れた生活リハビリを行っています。コロナ禍ということもあり外出がしにくい世の中になりましたが、【食】への楽しみに力を入れ、月に1度、飲茶作りを開催し、楽しみながら作り召し上がっていただくことをしています。出来る事柄を大切に、出来る限り自身で行って頂けるようお願いをしております。また、住み慣れた環境で末永く過ごして頂けるようにも配慮をしております。  
季節ごとのイベントを大切にしております。ご入居者様が楽しんでいただくことはもちろんですが、職員も一緒に楽しむということを大切に季節のイベントを実施しています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和4年2月17日	評価機関 評価決定日	令和4年4月21日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<b>【事業所の概要】</b> この事業所は相鉄いずみ野線いずみ中央駅から和泉川沿いに10分ほど歩いた静かな住宅街に位置している。重量鉄骨造り3階建てのホームは、居室面積もゆったりとした広さがあり、すぐ近くにある同一法人の有料老人ホームと同一の洗面台や家具などが備えられている。有料老人ホームとは、災害時や行事の際は協力関係を構築している。 <b>【徹底した感染症対策】</b> 法人全体で、外部からのウイルスの流入を防ぐために徹底した感染症対策をしている。事業所内は抗ウイルス、抗菌コーティングを施し、新型コロナのウイルスを除去する空気清浄機付きの加湿器を多数設置している。職員には週1回のPCR検査を行い、万が一に備える体制を構築している。事業所内の清掃に加え、共有部分のアルコールや次亜塩素酸による消毒、時間を決めた換気、職員が利用者のケアに当たる時は、マスクにフェイスシールドを重ねて着用することなどを徹底している。 <b>【食を通じた理念の実現】</b> 法人の理念に利用者、家族、近隣の方々、職員の「幸せ」の実現には「食・健康・楽しむ・住・介護」の5つが欠かせないものとしている。コロナ禍以降、外部との交流や外出の楽しみが減っているため、「楽しみ」については「食」を通して楽しんでもらうことにした。利用者と職員と一緒に楽しく作れる「飲茶」づくりを月1回のイベントにして、餃子やシュウマイを手作りして一緒に食卓を囲んでいる。
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム泉
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアに掲示して、いつでも確認できるようにしている。又、ユニット会議等で意見交換を行い理念に沿ったケアが出来るように心掛けている。	法人共通の理念、利用者を中心にその周囲にいる人たちの「幸せ」の実現を掲げて、幸せの実現に向け、「食」「健康」「楽しむ」「住」「介護」の5つの充実を図っている。一昨年以降の新型コロナの影響で、外出や外部とのかかわりもできなくなり、利用者の楽しみも少なくなっている。ホームの中でできることを充実させていくことを狙い「食」を取り上げ実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、資源ごみの回収に協力。プラ、紙、電球等を行う。11月にクリスマスイルミネーションを行い、アールと周辺のお子様への楽しみとして行っている。	開所時から町内会の一員として、利用者とともに地域行事に参加をしたり、資源ごみの回収などにも協力をしてきた。地域の情報は現在回覧板や、時折利用者の様子を訪ねに寄ってくれる町内会長から得ている。コロナ禍以降は散歩の際に地域の方と挨拶を交わすくらいになっている。クリスマス時期には玄関付近をイルミネーションで飾り、地域の方に喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの人たちに、お話をして理解してもらうようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍ということもあり、2ヶ月に1回書面開催で運営推進会議を開き、状況報告、地域の行事予定を聴いたり、意見を頂いたりすることでサービスの向上に努めている。	運営推進会議は現在書面開催になっている。活動の様子を家族代表や町内会長、地域包括支援センター職員、区の高齢障害支援課の担当者に送っている。参加メンバーに意見を頂いているが、掘り下げた意見交換はできていない。	運営推進会議に参加をしている家族は3ユニット全体で1家族だけになっています。書面会議の報告書の送付も参加メンバーのみです。事業所の活動に興味を持っていただき、幅広い意見を頂くためにも全家族に活動報告書を送付し、今後の取組みにつなげることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に区役所、ケアプラザへ参加をお願いしている。その時の状況報告をしている。	要介護認定の更新等や消防署関連の書類提出などで区役所に出掛けた際に担当者や情報交換をしている。区主催のオンライン研修にはできるだけ参加をしている。行政から感染症対策用のマスクや消毒薬の提供がある。グループホーム連絡会はオンラインで参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	玄関のみオートロックにしている。その他の出入口には鈴をつけ開閉の確認が出来るようにしている。会議の中で勉強会を開催、外部研修には積極的に参加している。外に出たい方が居る時には止めず付添を行う。	身体拘束禁止と虐待防止対策委員会を合わせて3か月ごとに開催している。管理者、各リーダー、常勤職員が固定メンバーになっている。委員会で話し合った内容は、毎月のフロア会議で報告して共有している。ケアの中でスピーチロックにつながる声掛け等は、管理者がその場で注意をすることで職員が委縮することもあるため、会議の場で取り上げ注意を促している。事業所内はエレベーターも含めて自由に移動できる環境がある。	車いすの方が1日中フロアで車いすのまま過ごすことがあります。椅子に移乗できる方は食事の時は椅子に座ったり、食後は居室でゆっくり過ごしたい方はベッドに移乗するなど、できるだけ個々の方のADLやその時の気分に沿った対応を期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中で研修・事例検討を行っている。ユニット会議等でも話し合いやケアについての確認を行っている。	攻撃的な言葉を発したり、利用者間でいさか이가あった際は、散歩に誘って気分転換を図っている。虐待防止チェックシートで不適切なケアの確認や、2か月に1回、介護保険全般にわたる5分間テストを実施し、中でも虐待については再確認をしている。職員のストレス軽減のために、休憩時間外にホッと一息できるように、甘いものを口にしたり、話ができる時間を設けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部のオンライン研修にて学ぶことが出来る。その時の資料のデータを他のスタッフにも共有し学ぶことが出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時、契約時に説明している。機会がある時は再度説明理解して頂いている。面会時等にも行っている。疑問が有る際にはその都度説明を行う。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で密になる会議は実施できていませんが、カスタマーアンケートを実施。面会時や近況報告の連絡・ケアプランの更新の際に要望や意見を伺い、反映している。	毎年本社が、家族に向け満足度調査を行っている。アンケート結果はフィードバックされ、必要に応じて会議で取り上げ対応している。ケアプラン変更時には家族に要望や意見を伺っている。個別要望で、病気のことや今後の治療について医師に確認をし、会話の席を設けることもある。利用者の近況は、居室担当者がホームからのお知らせに写真を添え、家族に送っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や個別での職員面談を行い、運営やケアに関する意見などを聴く機会を設けている。ユニット会議などでわからないことがある時は管理者に確認し、回答を得ている。	全体会議は年2回程度、リーダー会議、ユニット会議は毎月開催している。リーダー会議で決めている行事食がマンネリ化しているという職員の意見があり、各ユニットでメニューについて話し合い、食材やおやつの内容を豪華にした。職員の提案でたこ焼き機を購入して利用者の目の前で餡入りカステラ等を作って喜ばれている。職員が意見を言いやすい環境があるが、遠慮がちな職員には管理者が個別に声をかけ、意見を聞いている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員・パート職員共に向上心があり、勤務状況が良ければ、正社員の推薦が受けられる。コロナウイルス対策にも力を入れ、職員が安全で安心して働ける環境を整えている。	年齢制限はあるが、パート職員から正社員になれる環境が整っている。正社員には定年後、年単位契約の再雇用制度がある。シフトを作成する際には、職員に休暇希望を聞き、休みが取り易い環境を作っている。地方から首都圏に住居を移して入社される方には費用支援がある。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン研修を行っている。外部研修も積極的に行っている。薬の情報の本や血液検査の説明の本など直ぐ手の届く所におき情報収集を行っている。2ヶ月に一度5分間研修テストを行っている。	オンライン研修や外部研修の受講を推奨している。法人系列の教育センターで初任者研修等の資格を取得し、勤続1年が経過した際は、費用の全額補助が受けられる。また、介護福祉士等には資格手当が支給される。管理者が職員に資格取得を勧め、会社に費用負担をお願いすることもある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市GH連絡会に加入し、主催する研修に参加。情報収集を行い、研修内容を職員に伝えている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを取りに行く際には、ご本人様から思いを伺っている。声掛けを多くし、意図的に関わりを多く持ち状況・状態把握が早く出来るように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、アセスメント時、入居時、その度に思い等を伺うようにしている。不安なことがある時は、連絡を頂けるように説明を行っている。面会時は顔を合わせ思い等を再度確認。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学时に当施設の入居条件を説明し本人や家族の要望を伺う。サービスを説明し、ニーズと合っているかを確認。不一致の場合は、ご家族様に他サービスを提案することがある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にフロア等で過ごし、お話をしたり、テレビの感想を伺ったりしている。音楽に合わせて歌などを歌っている。ケーキ作りを手伝っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1回、バイタルチェック表と近況を書いた手紙・写真を送っている。面会に来て頂くようにも話している。状態の変化時は必ず連絡、様子をお伝えしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人、知人の方からの電話の取次ぎやお手紙の支援を行っている。	職員は年賀状を書ける方の宛名書きや投函を支援している。歌の好きな方はホームにあるカラオケセットで、互いに点数を付け合い楽しんでいる。ピアノを弾く方には、ケアプランに反映させ、できるだけ弾く機会を作っている。旅行が好きだった方は、今は旅行雑誌を読むことが楽しみとなっている。以前からおしゃれだった方が洋服選びを熱心に行っている。入居期間が長くなるにつれ利用者同士が馴染みになり、交流をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	10時・15時の水分補給の時間には皆で談笑している。しかし難聴の方も要る為、職員が入り橋渡しを行い、仲間に入れる様に心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの連絡や相談等あったら、出来る限り対応するようにしている。保険などの対応に関しての相談や対応など連絡が有る。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々、会話をしながら、本人の表情や希望等を汲み取り、把握に努めている。散歩等により普段と違う面も確認し、情報を共有して状況把握を行い、ご家族様に報告・過去の話をお伺いしている。	利用者と個別に話を聞く機会を設けたり、入浴介助時やトイレ介助時が本音を聞く機会になっている。言葉の出にくい方や意思を表現することが難しい方にはいくつか選択肢を示して簡単に答えられるようにしている。入居直後や、意向把握が困難な方には家族にできるだけ情報提供してもらい、それを踏まえて対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	テレビを観ながら流れる事柄で話をすることで今までの生活環境を聞き出したり、家族面会時や電話連絡の際にお話しをお伺いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の行動把握に努め、どのようにしたいか伺ったり、普段の様子から汲み取る。チェック表等で現状把握。散歩等の状況を確認し努めている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時にご家族様にお話しをお伺い。ユニット会議で意見交換を行い、ケアに反映。認知症の種類によりかわりを変えている。アセスメント作成時はフロア職員より意見を確認し多数の情報を共有した物を作成している。	ユニット会議に合わせてケアカンファレンスを行っている。ユニット職員が全員参加して意見を交換しケアの統一につなげている。利用者に変化があった時は、出勤職員でミニカンファレンスを行い、後日そのほかの職員に意見を聞いている。ケア記録は家族にも提示することから、丁寧な記載を心掛けている。新規入居の方のケアプランは、家族の要望等を踏まえて作成し、3か月で見直している。通常は短期目標6ヶ月、長期目標を1年とし、医療情報等を加味して作成している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今までと違う行動等があったら詳しく個人記録に記録。日報等にも記入。ユニット会議の中で話し合い、これからのケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院時は職員が行うことがある。本人がお持ちのものが壊れたり、足りなくなったりしたら家族の了承を得て買い足している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩をしながら、コンビニに行っている。コンビニでおやつを購入している。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療は定期的に受けているが、その他にかかりつけ医がいる場合は、定期的に家族に代わり通院介助をしている。家族様付添で受診することもある。	利用者全員が協力医（内科医）の月2回の往診を受けている。専門科への通院は家族が同行しているが、状況に応じて、職員が対応することもある。歯科医は週1回訪問して利用者全員の口腔ケアや必要な治療をしている。往診医には看護師3名、薬剤師が同行して来訪する。協力医療機関は、24時間オンコールできるコールセンターがあり、常時相談できる体制が整っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時、適切なアドバイスを看護師より受けたり、分からない医療用語を丁寧に教えてもらったりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は今までの状態説明を行う。面会が可能であればお見舞いに行き、ご家族への説明がある際には同席させて頂き病院での状況や情報を得る事で退院後のサービス提供に活かしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルは受けていないが、医療行為がなければ、いつまでも受けることが出来る。当社有料への紹介等している。主治医より家族と急変時の対応に関し話し合いをもってもらい、施設側も同席を行っている。	入居時に「重度化した場合の対応について」を家族に説明をして同意を得ている。延命に関しては毎年確認をし直している。体調に変化があった際は家族に連絡し、今後の対応を確認している。ホームでの看取りはしない方針のため、重度化が進むと法人内、もしくは他社の施設に移られる方もいるが、ぎりぎりまでホームで過ごしたいという利用者が多くいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議の際に研修を行い、話し合い・シミュレーションをしている。消防署の研修開催時には参加している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、注意点等の話し合いを行っている。町内の避難訓練に参加している。弊社有料施設への協力もお願いしている。	今年度は11月に夜間想定総合訓練を行い、3月にも訓練を予定している。消防計画提出時に災害時にコロナの陽性者がいる場合の対応について消防署に相談する事に行っている。コロナ禍以降、町内会の非常災害時の集合訓練は中断しているが、安否確認のカードを玄関に下げておく訓練には参加をしている。大規模災害時は、法人内職員が応援に駆け付ける体制ができている。備蓄管理は、管理者、リーダーが行っており、今年度は入れ替え時期になっている。	避難訓練に利用者2名の参加しかありません。3ユニットがあり、いざという時の応用力を養うためには、利用者を含めた繰り返しの訓練が必要です。従来の訓練のやり方や、利用者の参加状況等を今一度振り返り、消防署に助言を求め、職員間で話し合いを重ねられることを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時は必ずドアを閉め、訪室時はノックしてから扉の開閉を行っている。入浴時は浴室カーテンやタオルを使用し、入浴者が見えないようにしている。	排泄介助時にトイレのドアを開けて見守りや確認することは、虐待につながる可能性があるため、利用者に配慮した対応を心がけている。居室に入る時も利用者がフロアにいる時は、利用者の了解を得て入室している。利用者との会話もなれ合いで言葉がぞんざいにならないよう職員間で声を掛け合い、注意をしている。パソコンはパスワードを設定して管理し、管理者専用パソコンは別途管理者が管理している。USBメモリーは金庫で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意図的に関わりを多く取り、信頼関係の構築を行う事で、本人の思いが言葉として出るように心掛け、言葉で出なくても様子やしぐさなどで汲み取れるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外に出たいと要望がある際は付添を実施。その他の時間は自由時間で読書やテレビを観たり、ベッドに横になったりと自由にして頂き、強制はせずに本人の希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問理美容が来ている。ひげが伸びている時は声掛けをして鏡の前で電気カミソリで剃ってもらっている。外出時は職員と一緒にコーディネートしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話で好き嫌い、いま何が召し上がりたいかなどを聞き出し、季節感のあるものを提供、食事の支度・片づけを一緒に行いコミュニケーションを取る。	委託業者からレシピ付きの食材が届き、職員が調理をしている。朝食はご飯がメインだが、パン食も選択できる。昼食にパン食や、麺類も取り入れている。外出や外食ができない現在は、「食」が利用者の一番の楽しみになっている。そのことから月1回「飲茶イベント」を取り入れ、利用者と一緒に餃子やシュウマイを作って楽しんでいる。利用者のリクエストに応え、テイクアウトの寿司やドーナツを購入するなど食に彩を添えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者を利用して、カロリー・栄養バランスの管理を行っている。個々の水分量の把握が出来るようにチェック表に記入をしている。水分量少ない方は小さい器にし数回に分けたり、甘めの物や好みの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け・促しで実施していただき、職員確認し不足箇所は一部介助で舌ブラシやガーゼ、スポンジブラシを使用している。夜間は義歯の洗浄をしている。訪問歯科も定期的に診てもらえる。口腔ケア、その方にあった歯ブラシの使用。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	車椅子の方でも立位が可能であればトイレにて排泄をするようにしている。排泄パターンの把握に努めている。個々に対応し夜間リハパンで朝に布パンツへ交換するなどしている。	昼間はリハビリパンツの方も、夜間はパッドを使用するなど個々の排泄事情やパターンを把握して対応している。全介助の方も日中は2人体制で、リハビリパンツにパッドを使用してトイレで排泄している。できるだけ自然排便を心掛け、乳製品の摂取やトイレで腹圧をかけ、長めに座ってもらうなどの工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、散歩や体操・ストレッチを行っている。薬に頼らず乳製品やプルーンなどを摂取している。便困時は主治医より指示をもらい対処している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には週2回だが、希望や清潔保持の関係で回数を増やしている。入浴を嫌がる方は興味のある話や時間を変え入浴が出来るタイミングをはかっている。便失禁等の場合は対応している。	入浴は週2回が基本になっているが、お風呂好きな方や医師の指示で3回以上入る方もいる。あまり入浴を好まない方も職員の声掛けで入浴している。希望があれば同性介助の対応もしている。浴槽の湯は毎回交換し、入浴剤を入れて楽しんでもらう工夫をしてる。季節の柚子湯や菖蒲湯も利用者の楽しみになっている。浴室の入り口に暖房機を設置し、浴室のドアを開け脱衣場も温め、ヒートショック対策をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じて、湿度の管理。冬にはフロアと各居室に加湿器を使用している。ご家族に相談し使い慣れた毛布やタオルケットを持参頂き調整している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すぐに薬情が見られるようにしている。薬が変わったときなどは、職員が分かるように回診表、業務日報に記入。服薬している薬が理解できるように本がある。回診時に薬剤師が内容の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日本の年間行事を大切にし、その時期にあった食事やイベントを行っている。誕生日会や夏祭りなどを開催し楽しみが提供できるようにしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣散歩で公園や富士山を見に行ったり、季節のイベントごとの初詣など、出掛けることがある。地域のお祭りなどは感染防止のため中止になっている。	事業所付近や、富士山の見える場所にあるコンビニにおやつを買いがてら散歩に出かけている。初詣は近くの神社に歩いて出掛けたが、外出の機会が減っているためか脚力の衰えが見えた。外出記録簿でチェックをし、できるだけ外に出て歩く機会を作っている。花見も歩いて行けるところに出かけている。気分転換を兼ね、庭や玄関先に咲いている花の水やりや、手入れを職員と一緒にする方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金などの貴重品の持ち込みはご遠慮いただいているが、散歩の際に買い物に行ったときには、お金を渡し、支払いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人から電話があった際は、本人とかわり話しをしている。また、職員に電話をかけてもらい家族と直接話しが出来ている。年賀状を家族宛に送っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月飾り付けを変え、季節を感じてもらっている。湿度、室温に気を付けて加湿空気清浄機をつけている。芳香剤や消臭剤を使用している。匂いがこもらないように換気と清掃をこまめに行う。	建物丸ごと抗菌対策を施しており、リビングには光触媒除菌脱臭機や、空気清浄機付き加湿器を各フロアに8台ずつ設置している。食事時の飛沫対策用のビニールの間仕切りや、手の触れる部分のアルコール消毒、床は次亜塩素酸の希釈溶液で拭く等の感染症対策を徹底している。時間を決めた換気や、利用者がフロアで過ごす間は居室の換気に努めている。リビングの壁は、利用者が作った季節の飾りで季節感を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでも自分の部屋に入ることが出来、お好きなテレビを観たり、くつろげるようにソファや椅子もおいてある。ご入居者同士の会話にはスタッフが入り、スムーズに話ができるように心掛けている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ぬいぐるみや本なども置いてある。ご家族様の写真や家族の写真飾っている。本の好きな方には、読書のしやすい環境整備を行う。	理念の幸せの実現の一つにある「住」の充実に向け、同法人の有料老人ホームと同一の洗面台や家具などが備えられ、自宅から使い慣れた家具類を持ち込んでいる方もいる。コルクボード、写真等を飾り居心地の良い部屋にしている。洗面台で朝の身支度をする方もいる。居室ではテレビや旅行雑誌を見たり、横になりくつろいで過ごしている。携帯電話で通話をする方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車イス使用者の自操の支障にならない様配置、解らない様子の際には声掛けを行う。居室へのネームプレート等の使用など自身で確認出来る様にしている。		

事業所名	グループホーム泉
ユニット名	2ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲げ、理念に基づいてケアを行うように心掛けています。理念として、入居者の一人ひとりの個性や尊厳が守られ寄り添うようなケアを行うように努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、資源ごみの回収に協力。プラ、紙、電球等を行う。11月にクリスマスイルミネーションを行い、アールと周辺のお子様への楽しみとして行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの人たちに、お話をし理解してもらうようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍ということもあり、2ヶ月に1回書面開催で運営推進会議を開き、状況報告、地域の行事予定を聴いたり、意見を頂いたりすることでサービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会に区役所、ケアプラザへ参加をお願いしている。その時の状況報告をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	会議にて「拘束・虐待」について話す機会を設け、正しく理解してもらうように努めている。入口施錠の代わりに鈴などを付け、無断外出の防止を行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中で研修を行い、再認識する機会があった。理解を深め、防止に努めている。抑制を行う声掛けなどに注意し対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	オンライン研修に参加し学ぶ機会を持つようにしている。実際に対応する機会は少ないが、今後必要性があれば、対応して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时、契約時に説明している。機会がある時は再度説明し理解して頂いている。面会時等にも行っている。疑問が有る際にはその都度説明を行う。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	近況報告や面会時・ケアプラン更新時に意見や要望などを伺っている。また、玄関に意見用紙を用意し、自由に意見が記入できるようになっている。いただいた意見で可能な事柄から反映に努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や個別での職員面談を行い、運営やケアに関する意見などを聴く機会を設けている。ユニット会議などでわからないことがある時は管理者に確認し、回答を得ている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員・パート職員共に向上心があり、勤務状況が良ければ、正社員の推薦が受けられる。コロナウイルス対策にも力を入れ、職員が安全で安心して働ける環境を整えている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン研修を行っている。外部研修も積極的に行っている。薬の情報の本や血液検査の説明の本など直ぐ手の届く所におき情報収集を行っている。2ヶ月に一度5分間研修テストを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市GH連絡会に加入し、主催する研修に参加。情報収集を行い、研修内容を職員に伝えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントで本人と家族の状況や要望を伺う。入居後はアセスメントに基づいたケアを行い、笑顔でゆっくりコミュニケーションをとり安心出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面談する中で、今までの状況や困っている事や要望などを聴き、安心して頂けるように努めている。困っていることがあれば、いつでも相談して欲しいことを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や面談時に当施設のサービスを説明。入居可能か否かを判断し、必要なサービス利用も含めた対応に努めて、ケアに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、職員と一緒に家事・食事作りをしたり、カラオケなど入居者と寄り添い一緒に過ごしているような対応に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡の際や面会時には出来る限り、わかりやすく様子を伝え、近況報告の手紙を送付する際はイベント時や普段の様子の写真を同封し、目で見えてわかるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までかかわってこられた関係が途切れないように支援をしている。ご友人や親戚の方々からの電話の取次ぎや来訪対応をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のラジオ体操・ストレッチ運動やお散歩に出かける。また家事・料理のお手伝いをして頂く。口腔体操としてなじみのあるものを取り入れ実践している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡を頂いた際には、相談や助言等の対応に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃のご本人の表情や行動、訴え等を見ながら、一人ひとりの把握と検討に努め、ユニット会議などで情報が共有できるようにしている。ご家族様にも日頃から様子を伝え、行き違いにならないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や個人の意見・趣味嗜好などを尊重するように努め、ご家族様やご本人様からの情報を収集して、サービス提供に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家事の手伝いやテレビの事柄など日々の会話・行動・様子からご本人様の現状把握に務め、わからないことがあれば、ご家族様に伺ってケアに繋がるようにしている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議の中で、個々の課題についてご家族様・往診時に往診医とも意見交換を行い、ケアに反映をさせている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を各種チェック表や日誌、個人記録等に記載し、職員間で情報共有をしている。ユニット会議のなかで、見直し検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ同士で意見交換し、個々に合ったケアを考え、実行し、改善をしながらより良いケアの提供に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のコンビニにて買物利用をすることがある。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に24時間対応の往診医の説明を行い、希望を伺っている。これまで利用していた医療機関の選択も可能となっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居者様の様子をわかりやすく正確に伝え、アドバイスを貰っている。わからない時は相談し、丁寧に教えてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員から状況説明や情報提供を行い、医師からの病状説明がある際は、職員も同席させていただいている。退院時は家族と一緒に経過を伺い、今後の注意点や状況を聴くようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為がなければ、利用継続は可能な旨を家族に伝えている。ターミナルは行わないため、状態変化時や家族面談時に今後について、他施設紹介等を行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法など消防署にて研修等があれば参加をしている。マニュアルを設置し、誰もが対応できるようになっている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、確認注意点等の話し合いを行っている。町内の避難訓練に参加して、弊社有料への協力もお願いしている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自立している方には、トイレ後そっと排泄確認の声掛けを行っている。介助時はノックしてから扉の開閉し対応。排泄や入浴時は浴室カーテンやタオルにて入浴している方が見えないように対応。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るような声掛けの工夫をしている。洋服の選択や食べ物の好みなども自己決定できるように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせてケアを心掛けている。食事の時間が個人によって遅くなることもあるが、急がせたりせずにゆっくりと本人のペースを大切にしっかりと召し上がっていただくようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じて訪問カットにてカットしている。髪型は本人の意見を尊重している。衣服が汚れた際には着替えるように促し・介助している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合った形態・盛り付けにして召し上がり易いようにしている。準備や片付けは出来る範囲で手伝ってもらっている。料理作りを入居者様と行い、食への楽しみに繋がるように心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取等のチェック表を作成し、個々に合わせて提供している。嚥下の状態に合わせてトロミを付け対応したり、食器を使い分けたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせて行うように努めている。夜間は義歯洗浄を行っている。毎週訪問歯科がきており、職員も口腔指導を受けたりしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	車椅子の方でも立位や座位が可能であれば、腹圧のかかりやすいトイレにて排泄をするようにしている。排泄パターンの把握に努め、個々に声掛け案内をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を出来るだけ服用せず、食事やおやつ時に乳製品や繊維質を提供して予防を試みている。体操や散歩も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には週2回でご案内をしている。ご入居者様の希望や清潔保持により回数を増やすことがある。清潔を保つために精神的にも安心して入浴出来るように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整えたり、日中も個別に休息の必要な方には対応をしている。自立の方は、自由に居室で休まれたりテレビをみて過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルを作成し、いつでも見られる状態となっている。薬名、効能、注意事項、副作用ほか記載されている。変更時は業務日報と口頭で周知し様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や楽しみを持ち、生活の張り合いが持てるように努めている。食事作りやカラオケ、季節行事等で気分転換の機会を工夫している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数で散歩に行き、ゆったりと散歩が出来るようにしている。季節の行事ごとで外出する際は、フロアのご入居者様全員で外出している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人で立替をすることとなっている。外出の際、お金の支払いなど職員と一緒にするように支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族へ電話したいと希望があった際には対応をしている。また、本人宛の手紙が届いた場合はお礼の電話や手紙のお返事を書いてもらったりなど支援をしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安らげる空間作りを心掛けている。フロア内の壁には季節の飾り付けをしている。レクリエーションで作成した入居者様の作品を飾っている。スタッフと一緒にはり絵などを製作する。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの周りにいつでも自由に座れるようにソファが設置しており、フロアを歩きながら疲れたら休憩が出来るように工夫をしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より使い慣れた身の回りの物があれば持参して頂くようにしている。今までの環境に似せて設置するように努めている。仏壇や自作品、写真等を持ち込まれている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入口にネームプレートを設置、トイレには表示を付け、自身で出来るように工夫をしている。利用者・職員が安全にすれ違えるように家具の配置をしている。		

事業所名	グループホーム泉
ユニット名	3ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をフロアに提示し、理念に基づきケアを行うようにしている。職員一人一人も理解出来る様休憩室等にも掲示し日々確認し実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、資源ごみの回収に協力。プラ、紙、電球等を行う。11月にクリスマスイルミネーションを行い、アールと周辺のお子様への楽しみとして行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの人たちに、お話をし理解してもらうようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍ということもあり、2ヶ月に1回書面開催で運営推進会議を開き、状況報告、地域の行事予定を聴いたり、意見を頂いたりすることでサービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に区役所、ケアプラザへ参加をお願いしている。その時の状況報告をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	玄関のみオートロックにしている。その他の出入口には鈴をつけ開閉の確認が出来るようにしている。会議の中で「拘束・虐待」の勉強会を開催、外に出たい方が居る時には止めず付添を行う。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議のなかで、研修を行っている。拘束や虐待に繋がりやすいスピーチロックについての研修や5分間研修としてテストを行う。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部のオンライン研修にて学ぶことが出来る。その時の資料のデータを他のスタッフにも共有し学ぶことが出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时、契約時に説明している。機会がある時は再度説明し理解して頂いている。面会時等にも行っている。疑問が有る際にはその都度説明を行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や近況報告の連絡の際に日頃のご様子を説明。要望、意見を聴き、反映している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や個別での職員面談を行い、運営やケアに関する意見などを聴く機会を設けている。ユニット会議などでわからないことがある時は管理者に確認し、回答を得ている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員・パート職員共に向上心があり、勤務状況が良ければ、正社員の推薦が受けられる。コロナウイルス対策にも力を入れ、職員が安全で安心して働ける環境を整えている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン研修を行っている。外部研修も積極的に行っている。薬の情報の本や血液検査の説明の本など直ぐ手の届く所において情報収集を行っている。2ヶ月に一度5分間研修テストを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市GH連絡会に加入し、主催する研修に参加。情報収集を行い、研修内容を職員に伝えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントでご家族様とご本人様から状態や要望を伺う。入居後はアセスメントに基づくケアを実施。声掛けも多くし、安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、アセスメント時、入居時、その度に思い等をたずねるようにしている。不安なことがある時は、連絡を頂けるように説明を行っている。面会時は顔を合わせ思い等を再度確認。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や面談時に当施設のサービスを説明。ご家族様・ご本人様から要望や・ニーズを伺い、その方に合ったケアか見極め、不要なサービスであればご家族様に報告し、次のケアに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は出来る限り一緒にお茶や食事、レクなど一緒に過ごしたり、フロアの飾り付けを一緒に行い、関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	健康と生活の様子を手紙や電話でお伝えし、面会時には話をしたり、手紙などの文章では伝わりにくいニュアンスをしっかりと伝えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までかかわってこられた関係が途切れないように支援をしている。ご友人や親戚の方々からの電話の取次ぎや来訪対応をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様と一緒に過ごし、コミュニケーションを取るようになっている。歌やレクを行い、楽しみを共有している。会話が弾むように職員と一緒に参加し盛り上げている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、ご家族より相談を頂いた場合は、必要に応じて出来る限りの対応に努めております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族様と話し合いながら、以前の生活スタイルやご家族様の意向を伺い、ケアの向上に繋がるように検討している。普段と違う様子が見られたら、職員間・ご家族様にも報告を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活環境や個人の生活履歴などご本人様やご家族様から情報をいただき、ケアに繋がるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ないと決めつけるのではなく、どこまでできるのかを見極め、様子・行動・発言など多角的に見て、現状把握に努めている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議で話し合い、意見交換を行いケア反映されている。ご家族様とも定期的に連絡し要望やニーズの確認をしている。今まで行っていた生活が送れる様支援して行く。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や普段と違う行動が見られた際は日誌等に記載し情報の共有を行う。その情報を元に往診時に医師へ相談を行っている。ご家族様にも報告・意見を伺っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ同士で意見交換し、個々に合ったケアを考え、実行し、改善をしながらより良いケアの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のコンビニにて買物利用をすることがある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に訪問診療が受けられ、24時間のオンコール対応、夜間でも安心して相談や指示が往診医に仰げる。体調不良時の対応や説明などの確にさせていただいて、緊急受診時も安心である。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療の看護師に状況伝達、普段と違う様子が見られた際に相談を行っており、個別のアドバイスや情報をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は今までの状態説明や情報の提供を行う。面会が可能であればお見舞いに行き、ご家族様への説明がある際には職員も同席させて頂き病院での状況・注意事項の説明を伺う。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為がなければ、利用継続は可能な旨を家族に伝えている。ターミナルは行わないため、状態変化時や家族面談時に今後について、他施設紹介等を行うようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法など消防署にて研修等があれば参加をしている。マニュアルを設置し、誰もが対応できるようになっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、確認注意点等の話し合いを行っている。町内の避難訓練に参加して、弊社有料への協力もお願いしている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自立している方には、トイレ後そっと排泄確認の声掛けを行っている。介助時は扉の開閉に注意し必ずノックをしてから対応。排泄や入浴時はタオルで局部など見えないように対応。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定が出来るように、わかりやすい声掛けをしている。本人が選択が出来る状況を作り、急がせずにゆっくりと対応する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食器拭きや洗濯物畳をご入居者様の無理のない範囲で実施していただいている。本人の気分や体調など本人の負担にならないように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、訪問カットが来ており、外出時はご本人の希望の洋服で出掛けるようにしている。困難の場合は声掛けを行い一緒に選び着替えを行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな物、嫌いな物も美味しく召し上がれる様に工夫している。季節の食材を追加したりしている。食器を拭く際に話をしながら行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者を利用し、栄養バランスが摂れるようにしている。食事・水分など、その方にあった食事の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行いながら個々に合わせて介助を行っている。自身で行える方でも声掛けにて確認。歯科往診時に相談が出来る環境にある。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、声掛けを行いながら排泄チェックを行っている。排泄パターンを把握し、自力で行えるよう見守り・一部介助を行う。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維質の食べ物を食事やおやつに提供し、便秘が続くようなら主治医に相談し下剤の指示をいただき対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は週2回と決めているが、希望者は入れるようにしている。臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて室温・湿度や布団の調節をしている。週に一度、または汚れた時にシーツ等リネン交換を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より、薬情をもらっている。用法や用量を理解し、副作用等の理解し、変更時は薬剤師に薬の内服方法や飲み合わせの確認を行い、全職員に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな歌を聴いたり、歌ったりされている。演歌歌手などのDVDを流すこともある。身体を動かしたい方にも風船バレーなど行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別での外出の機会を作り、外での活動を行っている。また、施設前のスペースでひなたぼっこを行ったり、シャボン玉で遊ぶことがある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失トラブルを避けるため、施設では金銭所持はしていません。必要な時は一時立替を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族へ電話したいと希望があった際には状況に応じて対応をしている。本人宛の手紙が届いた際にはお礼の電話や返事を書いて散歩時に投函するなど支援をしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花を飾ったり、季節に合った飾りを作成して飾っている。お花の水の交換など手伝っていただいたりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	声掛けを行い、独りにならないようにしている。理解の度合いが違う入居者へも分かるよう間に入り橋渡しを行い会話を成立出来る様に行う。席の配置等にも注意している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や若いころの写真飾っている。施設備品の本もある為好みに合わせ提供している。また歌が好きな方もいらっしゃるなので、歌唱番組を流すこともある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが設けられている。トイレの表示がされている。居室に関しては表示をして分かるように案内している。車イス使用されている方がいるので、家具の配置も広めにしている。		

